

新編水滸畫傳

九編

四

~21
875
84
p4



明 21
825
卷 84

神書佛書鬻書國學
繪本平介新古賣買
手遊いろく法存の閑
河内文了のたのむと上

後醍醐三休楷再入

河内屋孫文術

新編水滸画傳卷之八拾四

東武 高井蘭山翁

譯編

明治三十二年
十一月十日
樂

○寧海軍ゆく宿江孝と帰す

偕も三大王容貌文書と云く云く云く
つゝ苗城お武具と送る老世かんばり速城内入むむむむ
愚作のとりやあゝん様
念じらねば郭世度令とかけ。自五百姓人と引門の辺
出先二人の軍士とせし船中と捜させり。果しと武具と
積て居し。郭世度船と休し十餘艘の船と城中入し
めらる。時李達は勉旭項元李哀おとせお餘の因らう知れ
は彼二人の軍士とせしとて大お孩と汝曰人への者なるどと問け

新編水滸画傳卷之八拾四

ろふ項元李夜子も刀と舞。二人の軍士と斬伏る。彼五
百餘人の去す。岸の上よりたんとて大お怒り。是れ皆中
小跳衆んとせし。知小李達己小岸の上よりて。二の斧と揮ひ
矢揚ふ十餘人の軍士と斬伏る。法の軍士せもど。怕はたて
に方小逃散る。李達費保おけ。皆ひ小あひて。岸上小跳上
數百人の老小下知。一度小火と放る。別ら四面小撞お。凌
振は是れを時分能ぞと料り知り。も下の石炮お。急お。お
の石炮と日時小放せ。れが。青天地小寫て。山にも岩を砕。三大
王の貌へ石炮の害と受く。大お怒る。このふと。鋒初に城の口と
おろす。お。石炮の害と受く。是と。皆。兵と。城中小。李
は時流矢小中て死する。南軍は。數知。皆。風。李達。戦。利。の。

音真と傳し。絶旭おと共小兵と引く。東西南北小跳回。款
條多付。れり。戴宗へ又費保。お。人。と共小。凌。振。と。ゆ。け。只
顧石炮と放。し。宋。は。是。小。放。く。三。河。より。人。馬。と。を。あ。お。
又。城。中。小。攻。入。く。敵。小。撃。し。く。南。軍。せ。の。款。く。戦。人。と。能。は。
各。先。と。争。く。逃。ま。る。二。大。王。の。貌。の。馬。を。馬。小。奪。く。五。百。の。去
と。奪。ぬ。南。門。より。ま。り。お。んと。せ。知。小。黑。旋。風。李。達。人。數。と
引。く。い。知。小。張。某。り。喊。と。叫。ん。が。皆。攻。り。し。南。軍。は。も
大。小。孔。を。穿。て。以。て。引。る。知。小。港。の。内。より。花。和。尚。魚。智。深。淨
杖。と。擡。し。と。お。出。く。方。貌。は。小。款。する。と。能。は。兵。糧。知。く。同
く。烏。鵲。橋。の。辺。小。退。く。知。小。以。老。武。松。横。合。より。跳。出。く。
方。貌。が。奪。る。馬。の。脚。と。破。く。皆。く。は。方。貌。を。制。し。居。

々るふ武にありし口と巻く。方貌が首と削る。右のふ提中軍ふ純同り宋に敵ぐる。此時宋公明の軍城の中へ入る。三軍とて方ふをきし。偏く南軍を捜し。敵をむ。宋の兵どい。南軍と捜し。首を削る。提中軍の級軍あり。年一。勇烈とて。逃去り。宋に三軍ふ号令と傳へ。百姓と傷つ。朱全徳將と集り。金印と偽り。武の方貌と教。朱全と徐方と活捉。史をの甄城と活捉。孫立の張威と教。李俊の昌盛と教。樊瑞の鄒福と教。宣贊の鄒世度と戦ひ互に付死す。徐の徳大將も右敵兵と付死す。宋江の宣贊が付死す。とて。大なる時人と計く。

屍を拾ひ。虎岳山のふ森。む。板板方貌が首を徐方甄城ふと。張招討軍前ふ送せけと。張招討教。と教。首を街ふ鼻。張招討す。劉光世は。蘇州城と守り。宋江と傳使。とて。方貌と攻む。劉光世兵と引く。蘇州ふ移り。宋江自らこれと。城の中へ入。昔ふ軍率と。水軍の消。と。同。知。水軍。逃。程。水。務。利。と。報。宋江。不。欣。收。子。速。文。書。と。修。捷。軍。の。と。張。招。討。報。板。水。軍。の。改。改。海。沿。海。の。敵。と。逃。遂。蘇。州。同。宋。江。告。二。院。兄。牙。常。熱。と。攻。時。時。目。と。又。崑。山。と。時。孔。亮。と。



郭世廣
軍士よ
船中
點查
しむ



失つり。石手乃李俊の管意あり同じし。其の施具孔亮の意も水
 練と知りしに水練死し平の末に是と變く。孫漢の酒
 びらる。此時費保口人の末に列を告ぐ。同人と欲く。必
 宋江再三留し。人の老成して。必
 留し死しと知り。列全招縁段と莫太ふ。人の老と費
 再び李俊童威兄弟小令。人の老と送。何れも
 お再び松栢庄におぬりし。費保救く。酒宴と役く。李俊お
 と款待。酒已小數遍と巡り。怨小費保又李俊お對し
 て云。我世半。必成必有。汝為人有真必。有長と云。是あり。
 李公深。山泊におま。と立。己小二十。年。る。百
 とひ。戦て。百。とひ。務。大。遣。と。破。り。田。亮。王。慶。と。亡。く。し。時

と。入。百。八。人。の。内。一。人。も。款。ぞ。り。し。う。其。後。方。備。と。攻。め。入。り。付
 死。す。人。多。く。是。列。天。數。の。李。公。今。か。と。云。胡。款。汝。破。り
 ろ。平。の。後。ち。却。く。好。む。お。害。せ。し。る。平。我。們。に
 人。事。公。お。二。人。と。義。と。結。び。一。と。事。い。ひ。置。け。機。小。備。
 安。ん。立。命。の。地。と。ある。日。人。長。く。宿。と。し。ら。る。必。獨。ひ。汝
 勝。り。り。と。云。李。俊。け。云。と。變。く。大。お。收。び。費。公。の。教。へ。り。人。知
 微。小。明。け。我。お。速。下。お。逃。く。何。ま。お。り。り。も。後。ま。は
 ん。と。款。へ。す。いま。方。備。と。も。平。げ。ず。か。の。ど。り。の。末。公
 明。の。目。と。忘。れ。諸。情。の。不。存。し。人。方。備。と。平。げ。後。の。迷。お
 来。く。再。び。會。合。せん。然。ら。ん。と。云。下。等。口。人。難。く。待。り。人。死。し。め
 用。意。と。潤。く。我。と。介。抱。し。り。人。と。如。く。云。ら。ば。費。保。お。口。人。が。云

新編水滸書傳卷之八拾四

我門意と李公の命と違人や。龍と浮べく東隊を侍
 中さん必と物と先ひかんとする。李俊首取人。そを夜も
 宿し。翌日李俊費保に人小別進。威は身とせふ。陳小
 久り別り案公明小見へ。費保おが言と告り。案は意と
 せ。龍と浮べく。陳小久。威は身とせふ。陳小
 も案は意とせ。水陸の軍ると告り。案は意と
 せ。秀州へと発向。秀州とある大が段愷の蘄州のこ
 大王容貌死ると告げ。知と落りんと歎し。先人と流し。故の
 初静と何せ。知お故の大軍水陸より進びをん。子城下
 へ。寄来まき。と告り。し。段愷大お驚く。忽ち行とせ。し
 へ。板索綱のし。陳。陳。秦明。兵と引く。己小城下。小。水

軍と分。城の西門と圍し。段愷城樓お上く。さ。お。お
 り。さ。案。味と歎く。陳。案。小。出。せ。る。必。と。城。と。攻。り。と。し
 かん。と。自。兵。と。然。と。城。お。出。お。し。案。江。と。進。へ
 地。上。小。お。依。れ。案。江。を。と。ん。と。大。お。收。び。後。ち。供。物。と。供。お
 城。中。小。を。入。子。速。捷。文。と。知。と。白。姓。と。安。ん。ど。ける。段。愷。未。案
 江。お。と。お。謝。し。と。云。案。を。の。皆。陸。州。の。良。氏。な。り。と。せ。方。備。お。進
 り。と。己。と。と。は。せ。と。と。彼。が。幕。下。小。属。せ。り。今。日。幸。ひ。天。兵。の。至
 と。ん。と。堂。案。系。を。と。ん。や。取。く。ば。城。お。が。飛。と。免。し。又。案。江。益。收。ん
 ぐ。同。く。ら。汝。己。小。案。系。す。り。上。何。の。飛。り。あ。ん。知。ず。抗。州。寧
 海。軍。の。城。中。お。つ。う。う。大。ね。れ。と。ち。や。段。愷。首。と。云。抗。州。の。東
 蜀。炎。の。地。と。と。居。氏。を。と。ん。と。東。北。の。早。汝。南。の。大。江。西。を。湖

日自くは決めとせし軍馬と引く徳法縣と攻め抗州
 小舟を會合せしと約と定めり。宋江を討て又回け
 ろん。處を消し徒し大船の幾件をや。又呼延灼小使を約
 と幾件をや。一と名と報し。我小使しり。燕喜を去る處
 へ消し徒し。猪松冥小舟ひし。大船の幾く。二十二員なり
 芝蔴油盧俊義 朱武 林冲 董平 張清 解珍
 解宝 呂方 郭盛 歐鵬 鄧元 李忠 周通
 鄒淵 鄒潤 孫豹 顧大嫂 李立 白勝 湯隆
 朱英 朱富 時迁 又呼延灼軍小使し 湖州城を
 近日兵とをとり。徳法縣と攻んとする大船の幾く。十九員之
 呼延灼 索超 穆弘 雷横 楊雄 劉唐 單延陸

- 魏定国 陳達 楊春 薛永 杜迁 穆春 李雲
- 石勇 龔旺 丁得孫 張青 孫二娘

右面を小舟向する大船の幾く。口十二員之宋江が云す。おひのど
 くんべ。款地と攻めんとを易く。今汝と侍て此舟を保し方
 備が陳中。小使ひ入敵の要害と窺く大功とせん。と報す。
 汝肯く往べしや。燕喜を去る處。宋江の命。今棄ゆ。と違んや。汝く
 は宋大友人小使し。方備が陳中。小使ひ入敵地の内へ。と窺て
 昔小大功と立。狎宋君の厚恩と報し。宋江を去る處と
 く。大舟の役り。燕喜小討し。と云る。我ら。白衣秀才の形。小
 出ま。と。汝の家僕の形。小出ま。琴劔書物。及おと。符。く。
 我小使ひ。夕。汝。く。人。疑ひ。と。犯。は。と。互。ほ。じ。ん。ば。海

迎ふ船く船小系船州とてさく徳既縣より山崎とわたり
 睦州とや遠うべ家江云船州の軍民其の船我朝不後て
 未ど方備お備うざんべ我公文とをりて。彼所の守備ふふ
 吉日を構うあり殺せし人家を盡き收む命と文
 遂不用意と細へく。雲日軍江小別とあら海辺へと急ぎけ
 り。茲小又軍州軍用再び軍江小對して云らる抗州の南半
 辺を錢塘の大江とて海島小海邊より一人の大船小船
 小舟と海迎う楮山門小をこ入る南門の介小繞出く
 ね家の石炮と紋ら亦小お家の旗號と立は城を必以發動
 するもあざ。あは水軍の大船出くゆへ彼地小船人かと未
 ど云も存らざるふ。張横三流をこ出く云我軍敢く彼地は

懸ん軍一々号令とりて入軍江云抗州の西所へ赴て湖泊
 とれ要害とする知らんべ又水軍と用回へことあらん軍下お
 口人皆一月小住へ却りて。別小又軍一々海軍
 とく計と軍用お向りて。軍用が云張横と既小七ふ侯健
 と侯系住とと係統く三十餘人の水子とを。十餘丁の石炮
 亦小旗號と持し。皆小彼地小をこ心す。利とわらるる
 べし。軍江は海小舟とて。張横既あせ小侯健侯系住とわ
 派りて。半とわらる。今止むれば。口人の大船命と飲し。水
 軍おと。亦小海迎小船く船小系。錢塘江の内小備り。水
 軍軍江の再び秀剛小同り。抗州と攻らん計と議し。事知小
 勅使とく。亦と係りと。報とるれば。軍江自。諸將と引て



宋江明
安道全
執事
達也

龍德先昂 躍天泚食 五影子也豐月

新編水滸畫傳卷之八拾四

十一

勅使と城中近へ引寄せと欲けく懸念お答へ無し。酒已お敷
巡りお見せし処お勅使宋の少将と云ひる。帝前日風病と成た
まひく。御怒を伺ふ。を医安んずると朝廷お召し召る人の以半
なり。將軍軍し。安んずるとお召し召る人。宋に救て勅令を
遣ひ。而時安んずると欲けく引寄せと告知也。酒宴已お終りし。大勅
使逐ふ安んずると引寄せ。宋は時。召城の少将出り。宋
に又然れと欲けく。十里長きま。送り出。懸念無し。一後
と速く別れり。去り。宋の少将。宋の少将。宋の少将。宋の少将。
翌日劉光世お辭し。宋の少将。宋の少将。宋の少将。宋の少将。
こや崇徳縣お召り。宋の少将。宋の少将。宋の少将。宋の少将。
りして。宋の少将。宋の少将。宋の少将。宋の少将。

か左子方天定へ然れと欲けく。宋の少将。宋の少将。宋の少将。宋の少将。
は時二十八人の勇士懸く帳お小伺候り。は内日人の
脚。又召く大將軍の号と稱を。宋の少将。宋の少将。宋の少将。宋の少将。
宝光如集玉脚鄧之賢。南離大將軍元脚石室。
法玉大將軍厲天固。護玉大將軍司行方。
又二十人の將軍あり。厲天祐 吳值 趙毅 支堯
鼎中湯逢上 王勣 薛斗南 冷恭 張儉 元興 姚義
温克 徐 茅迪 王仁 鳳儀 崔或 廖明 徐白 張元
貝應 張 賴 蘇 宋泉
は面へは各可支。宋の少将。宋の少将。宋の少将。宋の少将。
お召く。宋の少将。宋の少将。宋の少将。宋の少将。

水陸より並び進ぐ。其の果るに己小江南と海。我二船と攻
 り。抗列の東南玉の要害なるふ。是は知と失り。睦州成保
 んと難う。七日天を監浦文英奏して云らる。正星我
 地と戦し。獨大あんと。今果し。常江兵と引て我地
 と戦す。是は浦文英が言ふ。意を。梁徳友が録と史し
 と。が。い。げ。度。一。令。と。移。ん。ぐ。故。と。追。追。け。軍。し。く。君。恩。と。報
 ず。ぐ。必。む。あ。る。と。あ。ん。れ。徳。の。報。し。し。く。云。ら。る。敵。下。を。と。安。ん
 ぐ。い。ろ。く。報。方。の。作。多。の。猛。將。勇。兵。あり。何。ぞ。常。江。と。我。と。あ。る
 ん。や。今。こ。こ。小。數。船。と。ま。ふ。と。之。も。是。又。憂。と。す。ふ。是。く。は。常。江
 廣。後。義。兵。と。三。船。小。令。く。抗。列。と。攻。知。ん。と。あ。る。よ。う。に。船。の。あ
 る。是。と。安。及。ぶ。敵。下。の。玉。州。と。共。小。寧。海。軍。の。城。と。あ。り。ろ。く。は。く

各軍馬と引く。故と争ひ。只一戦の因小軍の活。授らる。一
 方天定を。吹く。大。よ。好。び。子。連。人。も。と。信。し。徳。の。小。令
 五。自。の。玉。州。鄧。元。覺。と。共。小。寧。城。と。あ。る。相。殺。三。人。の
 之。帥。各。副。將。と。引。く。を。奔。れ。薩。玉。之。帥。司。の。方。の。薛。中
 南。黃。也。隆。白。希。泉。も。田。將。と。引。く。徳。清。列。と。救。入。結。玉。之
 帥。屬。天。固。の。屬。天。祐。張。儉。張。鞏。姚。義。未。田。將。と。引。く。杜。松
 雲。救。入。南。離。之。帥。石。室。の。溫。克。儀。趙。毅。冷。馬。王。仁。張。及。系
 吳。值。虞。明。周。傑。も。八。將。と。引。く。故。の。大。軍。成。す。二。人。の。之
 帥。各。二。万。餘。騎。と。引。く。之。引。け。方。の。徳。清。列。と。救。り。ん。が。お。ま
 口。法。と。原。ん。ぐ。を。奔。れ。屬。天。固。の。杜。松。雲。と。救。り。ん。が。為。餘。抗
 州。と。原。ん。ぐ。を。奔。れ。去。後。小。宋。江。の。大。軍。と。引。く。臨。平。山

小島り山の頂とて屋をなす。一面の紅籠ありて、岸にん花
 榮。秦明、小一の軍をとなへて、陳をなす。む、ある兵と
 然し。一月おきて、出さふ山口とて、ゆく。二里もゆりり。
 ちや石室が守るふゆ過り。石室が、ちやの大將王仁、風儀
 各槍と揃へ、陳におし。逃出る。秦明も、槍牙、揃へて、風
 儀と戦ふ。花榮、入道と揃へ。王仁と戦ひし。や、雌雄つまじ
 変せ。秦明、花榮、故軍の後へと、さる。救ひのき多かりし。ふ
 大なる急、小馬を鞠へ。陳中、おし。回さる。花榮が、玄、敵勢を
 大ひかれば、走戦と体。宋を逐ふ。ゆと、折へ。折、小、直儀と
 ちして、敵と破る。秦明、けま、と、突、可なりとは。即
 ち、小人と、揃へ、戦の、次第と、宋に、おし。折へ。折、小、直儀と、宋

今、徐寧、黃信、孫立、未、おし。自、陳、おし。宋、ある。彼、王
 仁、風儀、再び、馬と、出。大、青、おし。小、ゆり。宋、胡、の、敵、軍
 命、惜、ふ。速、小、馬と、り。海、系、を。系、終、ら。ず。ん。び。を。人、も
 漏、る。ぐ。る。封、ぬ。べ。秦、明、これ、と、笑。大、お、怒。り。馬、と、逃、せ
 槍、と、揃へ。て、陳、お、お、出。又、風、儀、と、逢。お、戦、ひ。王、仁、ち
 槍、死、業、と、罵。戦、ひ、と、挑。花、榮、急、に、突、出、ん
 と、り。処、お。徐、寧、が、持、お。在。情、お。ら。義、お。お、槍、へ、槍、機
 ち、漂、と、放。さ。る。夫、得、る。王、仁、が、た、の、眼、お、中、り。王、仁、遂、お
 馬、より、り、お、落、お、ら。南、宋、を、と、り。各、色、と、失、ひ。忽、ち、碎
 易、して、お、強、く。風、儀、ハ、王、仁、が、付、ま。る。と、ん。と、力、を、落、し。是
 又、秦、明、が、持、お、眉、間、と、お、死、よ、け、り。南、兵、を、是、と、て、大、く

徐寧都思文自出之故の消息と疑ひ一連小數日臨流
出く南軍と相ひしうも。敵軍一人も出でけ日又徐寧都思
文數十騎を引く小軍門の邊小なり遠小城門と屋らふ
城門大小完けくありしう。西將奇しく馬とをめて吊橋の
辺小なりける。知小忽然とて城の上小敷と鳴し。あとも一
敵の軍馬擡く出る。徐寧都思文是とて急小引返ん
とて。時城の西の方小喊の聲大なり。又百餘騎の軍
衝く出出小徐寧を逐くし。お幾人徐寧鎗と挑く。大勢
の中小擡く入良文。一戦く再び圍の弁小突く出。路と
也して程方の軍馬と入る小。都思文大勢と戦く。遂は路
擡りしう。徐寧多小これと救りんとし。知小一筋の流

矢を飛来く。血止小中り。血を候とて紅小染小け。徐寧
は矢小痛んぐ。働くと能く急小する。同じて逃去る。款の
去お後と慕ひて逃去る。己小危くんとし。知小軍務兵と
くけ知小能く。款の去おと逃去る。徐寧と救ひ遂小陳
中。小回りく。徐寧と入る小。徐寧系毒矢小中りしう。ば
眼と眩し。倒まらる。周備大。小驚く。宋は小動と注し。す。
宋はこんと。即自軍務。陳。小知り。知徐寧と入る
小構む。徐寧は。紅小染く。平死。生の辨く。宋は
後と酒く。涙。早。速。医。作。小。今。し。療。治。と。加。し。
う。も。毒。矢。小。中。り。し。と。か。ん。ば。そ。の。夜。更。の。時。分。小。又。眼。と。眩
し。人。半。と。さ。へ。さ。り。し。う。ば。宋。は。天。と。作。り。嘆。り。る。ん。神。と。送。安

乃をいれおたえらん。け知又別お名医もいづらん。徐寧と
 救りと難うもしと。孫波と流し。男とらる。軍陣善用を
 と傳へ云。宋軍先を徐寧と送り。まへに。軍陣と後した
 まへに。身牙の情と伝へ。玉家の大軍と傳らる。や。宋
 江に時人と伝へ。徐寧と送り。別お送り。官と。藤治と加
 へ。めらん。毒矢お中り。毒骨髄お送り。お中り。月
 と送り。遂お死し。送りける。まへに。宋江の人と伝へ。都思文が
 青江と送り。めける。知お。杭州。州門の城中より。都思文が首
 と竿の次お。母て。殺方の。徳軍お。せると。告げん。宋江に
 云と。送て。これと。怒し。時節。徐寧。遂お死し。送りける。お
 送り。宋江。量り。と。痛め。せん。と。死し。と。大。お。と。送りける。お。

の。軍の大。徐寧。後お。兵と。送り。お。新。指の。迎と。送り。ら。
 徐寧。都思文。付死し。送り。と。送り。徐寧。出る。と。送り。と。別。ち
 張。張。と。も。傳。して。云。らん。我。お。守。る。知。お。松。州。州。徳
 二。處の。要害の。地なり。押。且。賊。兵。お。殺。し。け。知。送り。お。入。を。我
 軍。の。彼。が。喉の。地と。守。り。故。お。右。より。攻。め。我。兵
 必。定。彼。ら。へ。如。お。兵。と。起。して。西。山。の。内。入。お。湖。と。用。て。飛
 揚。と。せ。し。け。らん。山。の。背。後。へ。連。溪。お。通。げ。け。お。又。殺。方
 の。為。お。利。多。らん。張。張。お。我。軍。守。り。作。り。け。知。と。送り。と。送り。
 女。故。お。と。お。知。人。と。あ。ら。ん。れ。を。お。守。り。寸。切。と。送り。お。中
 小。屯。を。お。故。孫。波。と。お。ま。は。じ。り。れ。お。この。日。お。切。と。送り。と。送り。
 りん。や。我。今。湖。中。より。水。と。送り。水。つ。り。魚。の。と。送り。湖。中。お

新編水滸畫傳卷之八拾四

十六



張順敵地の
水信の
忍侍

鈴索と
扯とる

我ひ入晴ふ火と放ちお果とす。李公孫火とす。り。兵
 とす。故の水門とす。宋の舟とす。宋の舟とす。宋の舟とす。
 の軍ら。一はふ。張の機と攻り。張の機と攻り。張の機と攻り。
 まん。李俊が。計む。妙と。李俊が。計む。妙と。李俊が。計む。妙と。
 り。張の機と攻り。張の機と攻り。張の機と攻り。張の機と攻り。
 宋の舟とす。宋の舟とす。宋の舟とす。宋の舟とす。宋の舟とす。
 張の機と攻り。張の機と攻り。張の機と攻り。張の機と攻り。
 己小城中。李俊が。計む。妙と。李俊が。計む。妙と。李俊が。計む。妙と。
 援兵と。張の機と攻り。張の機と攻り。張の機と攻り。張の機と攻り。

夜張の機と攻り。張の機と攻り。張の機と攻り。張の機と攻り。
 と。張の機と攻り。張の機と攻り。張の機と攻り。張の機と攻り。
 湧金門。張の機と攻り。張の機と攻り。張の機と攻り。張の機と攻り。
 東坡待と。張の機と攻り。張の機と攻り。張の機と攻り。張の機と攻り。
 人け地。張の機と攻り。張の機と攻り。張の機と攻り。張の機と攻り。
 子書。張の機と攻り。張の機と攻り。張の機と攻り。張の機と攻り。
 小。張の機と攻り。張の機と攻り。張の機と攻り。張の機と攻り。
 う。張の機と攻り。張の機と攻り。張の機と攻り。張の機と攻り。
 己。張の機と攻り。張の機と攻り。張の機と攻り。張の機と攻り。
 の。張の機と攻り。張の機と攻り。張の機と攻り。張の機と攻り。
 け。張の機と攻り。張の機と攻り。張の機と攻り。張の機と攻り。

新編水滸書傳卷之八十四

七十八

迎ふありし如く城中より更に一更の鼓とあり城介は又静しとて
 只一個の人もあらず城中女塔の辺へは日又人の言ふと一向
 城介と置る張帆をさすの人とてみれば水中小院に良
 久せし又女塔の辺とてみれば日又人の言ふやえへりし如く
 張帆を水口の辺に探りあはせしとて何れか女塔の周より
 鈴の索と掛て城介を牽くべし卒にあはせしとては城介は
 して張帆大に焦燥彼索と知り扯りんとせし如くは一向は
 層しる城中の人は是と笑ふ大に怪しむ鈴の索は滑し疑ふ
 大奥来る索小解するの如く鈴は又水面上の如くは一向は
 水面と何いんは一向は又水一抱もあはせしとては一人又心を安
 んど飲りしは時こも三更の鼓とありしは張帆又水面に浮

んど城の邊にあり岸より上り城中小入るとありし如くは
 城中小人ありしは必し非命の死と遂げしを一人は一人と小石
 と拾ひ城中に投入ししは城中小入るとありし如くは軍士も
 大に驚き城介も小人ありしと有りし如く張帆は驚きと笑ふ又水
 面は驚きしは城中の雑物と笑ふ人多の軍士水につとては
 りるに怖る如くは城の如くは城中に石とありしや水面上
 船りやありしとては船皆湖中と入るは波風静しとて半
 隻の船もあはせし軍士ども一同に云ふは必し妖怪ありと我
 們と欺くは一向は唯水に捨て飲めとて是く女塔の邊にあり
 し如くは一向は時をやは更に天糸をりしは張帆は一向は
 りるは一向は迷疑せしが刻天明なりしは一向は時もあり城

小悲び入〜んとて暮び岸小上〜城月小石と打〜し〜
 強初〜し〜張吹心中小悲び〜城の墻と越ん
 と〜す〜一二丈〜城中小柳子と打〜
 軍士一交小起〜每小陰と持〜城外と見〜
 や〜張吹と看〜母老こそと互あれ〜
 張吹を〜水中小跳入〜水底小浮入〜
 中より數千の箭と雨〜射出〜張吹遂小箭小
 あ〜水中小死〜押は張吹江列〜魚牙至
 とか世し時定江江列小砥流〜
 梁山泊小入水軍流〜
 安及〜と建康府より迎〜人〜揚子江と渡る時截江

鬼張旺と云海賊小全非〜奪れ水中小沈られ〜
 悲哀の難と凌〜石小海賊と投〜
 水中小沈〜一時小沈と報〜の軍小大功と成〜
 と數尺〜
 女漸なりし次牙〜
 蕭滌令大軍樂和〜南端安及〜
 と後〜
 王定六韓滄彭玘宣贊郝思文徐寧張飛と連絡〜
 志ち〜外軍小從〜百八人なり〜
 宋江ハヤ小及〜
 吹亡〜
 杭州の軍〜

流布りゅうふの印いん不異ふい値ちとてあふくと列りゅうは保あまなり又また薩さつ或あつと宥あま或あつ
小作せうさくり通達つうたつ海島かいとうと有あと列りゅう保あまなり達海島たつかいとうと二字ふたごの地名ちがひと
す如ごとと保あまなり決所けつじょ也なり

新編水滸畫傳卷之八拾四年

